

喘息の治療法解説

アレルギーフォーラム

信大など

信大病院（天野直二院長）と日本アレルギー協会共催の「信州アレルギーフォーラム2014」が1日同院で開催され、3氏がアレルギー疾患の原因や治療法について解説した。信大医学部生体情報検査学講座の藤本圭作教授は、成人の喘息は非常に治りにくいと指摘。「いかに日常生活に支障が出ない状態を維持するか」が治療の目標

になると説明し、治療の第一選択となる吸入ステロイド薬の効果などを紹介した。

藤本教授は、一見イメージはないが、喘息はハウスダストやダニ、花粉などが引き金となるアレルギー疾患の一つだと解説。アレルギー反応によって気管支が慢性的な炎症を起こすとともに過敏な状態になり、気温の変化、運動、アレルギーと

藤本教授（左奥）らの講演に参加者が熱心に耳を傾けた



いった刺激が加わることで喘息症状が現れると説明した。

薬物治療の第一選択となる吸入ステロイド薬には、▽少量で効果が発現する▽全身への影響が少ない▽即効性があることとのメリットがあると解説。より早期からの適切な使用により、「症状が出ない状態を維持することは可能」と説いた。

喘息を悪化させる因子としては、風邪、肥満、ストレス、アルコールなどを挙げて注意を呼び掛けた。また、アレルギーを回避することは難しいが、部屋のこまめな清掃も重要だとした。

フォーラムではこのほか、信大医内科学第一講座の安尾将法講師が「アレルギー性鼻炎（花粉症）とぜんそく」、同小児医学講座の小林法元助教が「こどもの喘息の特徴」をテーマにそれぞれ解説した。

同協会は、2月17～23日の「アレルギー週間」に合わせ全国各地で一般向けの啓発事業を行っており、同フォーラムも事業の一環。